

事業番号	事務事業名	大手アウトドア企業と連携した好循環創出事業	所管課名	産業観光課	令和 3 年度課長名	小椋 正己
04416	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	産業観光課	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」の開催 モンベルが事務局となっている、SEA TO SUMMIT連絡協議会と岡山県、鏡野町と地元主要観光施設・団体等が連携した実行委員会を立ち上げ、カヤック、自転車、ハイクを楽しみながら、環境について考えるスポーツイベントを開催する。(開催中止) 鏡野町北部地域観光ビジョン提案	当町は、平成24年より大手アウトドア企業「モンベル」とのフレンドエリア登録。同社の会員(約90万人)に向けた情報発信及びPR等により、鏡野町の認知向上に寄与している。鏡野町の有する自然や農産物といった観光素材の価値を高め、選ばれる地域を目指す中で、モンベルとの戦略的な連携により好循環を創出する。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 自然環境に興味があるアクティブ層	ア SEA TO SUMMIT 参加者	人	見込 実績	170 183	170 0	170 0	170	170
イ	イ		見込 実績					
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 自然体験プログラムへの参加	ア 自然体験プログラムの数	件	目標 実績 達成率	45 45 100.0%	45 0 0.0%	45 25 55.6%	45	45
イ 着地型観光商品による経済効果を増加させる	イ 着地型観光商品による経済効果	千円	目標 実績 達成率	20,000 36,024 180.1%	20,000 5,312 26.6%	20,000 9,120 45.6%	20,000	20,000
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 広報宣伝	ア 大会開催やアウトドアイベントの広告	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 0 0.0%	2 0 0.0%	2	2
イ 実行委員会の開催	イ 岡山 鏡野 SEA TO SUMMIT 実行委員会の開催(書面開催)	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 2 66.7%	3 0 0.0%	3	3
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業 中事業		予算上の事業名			事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		07	06	大手アウトドア企業と連携した好循環創出事業			
1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	決算 (千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	3,470	717	12,250	1,876	1,876	11,533	一般財源	3,417	517	12,199	1,876	1,876	11,682	
合計	3,470	717	12,250	1,876	1,876	11,533	合計(A)	3,417	517	12,199	1,876	1,876	11,682	
財源名称	従事正職員人数						2	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間						56	7	30	7	7	23		
	人件費計(千円)(B)						196	23	101	24	24	77		
	最終予算額		12,250 千円	予算執行率		99.5%	トータルコスト(A+B)		3,613	540	12,300	1,900	1,900	11,759
主な 支出事業内容 (予 算)	消耗品費				300 千円	主な 支出事業内容 (決 算)	消耗品費				257 千円			
	委託料				11,950 千円		委託料				11,943 千円			

事業番号	04416	事務事業名	大手アウトドア企業と連携した好循環創出事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
ライフスタイルの多様化により、地域や企業の消費者離れが進む中で、戦略的な企業等との連携による好循環を創出が求められている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
当町は、平成24年より大手アウトドア企業「モンベル」(本社:大阪市)とのフレンドエリア契約により、同社の会員(モンベルクラブ)約9万人に向けた情報発信及び交流イベント参加等により、鏡野町の認知向上に寄与している。また、同社と包括連携協定を令和元年に締結している。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
モンベルのブランド力を活かした健康のまち鏡野町の知名度向上や地域資源を活かした体験プログラム等の企画・達成を求める意見がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 理由説明 モンベルの専門性を生かし、アウトドアの観光戦略を提案いただくことは、鏡野町の観光資源を生かすためには重要であり、今後の観光振興に結び付く。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 理由説明 町の知名度向上を図り、好循環を創出していくためには、官民が連携した戦略的な取り組みが必要不可欠であり、強力な広報宣伝網を有する「モンベル」と鏡野町が連携する形が妥当である。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である 理由説明 鏡野町が有する自然資源を始めとした観光素材を活かすためには、日本を代表する大手アウトドアブランドである「モンベル」と連携する形が最も有効であり、中期的に戦略を練ることは適切である。
	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)
<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している 理由説明 今までの連携により、地域を把握した中での専門性を生かした提案であり、有効な提案である。	
効率性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある 理由説明 鏡野町の観光資源を生かした観光振興の再構築を行うためには必要な事業である。
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない 理由説明 包括連携により、より一層連携強化を図ることで、効果の向上に期待できる。	
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 提案事業を実施する場合は、関係団体と調整を図りながら、費用対効果を見極める必要がある。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 提案を事業化していくためには業務は今後増加することから、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由説明 包括連携協定を締結して行っており、妥当である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																					
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	大手アウトドア企業「モンベル」と包括連携協定に基づき、鏡野町北部地域観光について、現状分析から提案報告を頂いた。今後精査しながら事業化を進める。																					
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p style="text-align: center;">今後の改革改善案</p> <p>報告書を基に事業化を進める中で、今後も連携を密にすることが必要である。</p>																					
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>\</td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			/	低下			\
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			/																		
	低下			\																		
財源を確保しながら、事業計画を進めていく必要がある。																						